

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた自然豊かな環境で、その人がその人らしく楽しく生活できるよう職員間で共有し対応している。毎朝の引継ぎ時、理念を復唱し意識付けをしている。また、家族新聞・パンフレットに理念を載せた。	事業所独自の理念を職員と検討し見直しを行ったり、理念の実践ができるよう事業所目標も職員と設定して取り組んでいます。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流会として今春、施設庭のお花見茶話会を行った。地域ボランティアの参加、少人数ではあったが、地域の方の参加があった。昨年12月より地域新聞を3ヶ月に1回発行している。	地域にも広報誌を定期的に回覧し、情報を発信しています。また、事業所のバーベキュー大会に地域の方にも参加してもらったり、地域の敬老会にも参加するなど、地域とのふれあいが心がけられています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の奉仕作業(環境整備・草刈)に参加している。地域新聞を活用し施設行事・ボランティアの参加を呼びかけている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度、役員改正ある。初めての参加でもあり、いろんな意見・質問が上がっている。運営会議の意見等、職員定例会議にて報告する。地域新聞に内容を掲載している。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、区長やご家族代表、民生委員や市の担当者から出席してもらっています。参加者へ事業所の状況報告を行い、会議で頂いた意見はしっかり受け止めて向上するように努力しています。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者・家族の相談や困難事例等、市高齢福祉課又は包括職員の方に相談し助言を頂いている。運営会議に高齢福祉課の職員より参加していただいている。	市の担当者には運営推進会議にも参加していただいております。アドバイス頂いているほか、困難事例の相談や不明な点について連絡を取り連携が図られています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束廃止」の研修に参加し、定例会議にて報告をおこない、拘束をしないよう取り組みに努力している。	身体拘束についての外部研修に参加し、内容を職員にも会議で周知徹底をしているほか、言葉の遣い方についても管理者が気が付いた時には指導するなど、身体拘束をしないケアを実践しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	6月末「高齢者虐待防止法・身体拘束の廃止」の研修に参加し、職員定例会議にて報告し各自、自覚を持って取り組んでいる。	身体拘束研修と同じく、虐待防止についても外部研修に参加し、職員会議で周知徹底しており、虐待の防止に努めています。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を利用している方がいない。その為職員で学ぶ機会がない。今後、研修に参加したい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所事前に契約書を確認していただき、契約時に再度読み合わせを行い同意を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	エレベーターホールに意見箱を設置し意見をいただいたり、面会時にこちらでの様子を伝えたり、ご家族の意見・要望を聞き、運営や支援の参考にしている。	運営推進会議の場だけでなく、面会時や電話連絡の際などに気付いたことや要望は無いか確認しています。また、事業所のバーベキュー大会や茶話会にはご家族にも参加していただき、ご家族との交流を図り意見が出易くされています。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員定例会にて職員の意見や要望を聞き、翌月の会議にて確認を行っている。運営者に運営会議議事録・定例会議事録を報告している。	毎月の職員会議の場で職員の意見や要望を確認しており、運営者にも会議内容の報告を行っています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から話し合いの場を持つよう心掛けている。又、個人面談を行い、意見要望など聞き上部につなげている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務調整を行い、個々の希望を聞き研修に参加できるよう配慮している。又、内部研修も要望を取り行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市ネットワーク事業(施設専門委員会)に参加しているが、なかなかグループホームとの交流が出来ない。交流を持てる機会を作って欲しい。又、行ってきたい。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込みがあった場合、事前に面接し状況の把握とご本人の思いを確認している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを受け止める為、面会時などに話し合いを多く持つように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	信頼関係が一番だと思う。御家族の要望を受け止め、必要としているサービスを知る。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に暮らすもの同士」という認識を持ち対応をしている。一緒に話、一緒に笑い楽しく過ごせる時間を作っている。		
19	(7-2)	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と過ごせる大切な時間を持てるよう交流会などの計画を立てる。交流会を通して信頼・協力関係を築くよう努めている。	ご家族に事業所広報を毎月送付しているほか、状態の変化があった場合はお手紙も作成して送付しており、日頃からよくご家族とコミュニケーションが取れており、受診・外出・外食の支援もご家族の協力をいただくなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	事業所の外出イベントの際には家族にも声掛けし、より協力関係の構築に努められることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域交流会やお祭りなどに参加したり、馴染みの関係が持てるよう、友人知人、家族の面会等の協力を得ている。	馴染みの美容室へ出かけたり、ご利用者と一緒にスーパーへ買い物に出かけたりとこれまでの関係継続支援に努めています。また、職員の異動についても事業所広報にてご家族に説明し、ご理解をいただけるように努めています。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に作業したり、外出したり、楽しい行事を計画し、その中で日々変化する心身の状態を注意深く見守るようにしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人、家族の思いを汲み取り支援している。サービスを終了した方へは他施設に面会に伺っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声掛けし、本人の意向の把握に努めている。問題があれば申し送り時や職員定例会議などで話し合い検討している。	日々のケアの中での表情や会話の中から思いの把握が行われており、その情報は申し送りノートに記載され、ケアプランの検討に活かされています。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接時、自宅に訪問しご家族やご本人に聞くようにしている。又、ご家族の面会時に情報を得ている。	ご本人やご家族からの聞き取りにてこれまでの暮らしの把握が行われ、ご本人の生活歴や嗜好を確認しています。	ご利用者の情報に関して記録のまだ少ない方もいるので、職員と協力し、ご利用者の情報把握に努められることを期待します。
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の生活リズムを理解するため、日々の変化や行動を観察している。ご本人のできる事を探り、日課として取り組んでいる。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族に意見や思いを伺い、職員会議にて検討している。その人がその人らしく生活できるような介護計画を作っている。	サービス担当者会議には職員も参加し、モニタリングも担当職員が行うなど、職員と協力してケアプランを作成しています。	ご利用者のファイルにケアプランが無い方がいたほか、短期目標・長期目標ともに1年の期間設定をされていたのが、ご利用者に添ったプランの検討がされるように検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルに食事量、体重・排泄チェック・バイタルを記録して日々の状態を把握している。又個人記録には、本人の言葉やエピソードを書き入れている。申し送りノートを活用し日々の気付きや変化を共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の、その時の状態に合わせて柔軟に対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーに買い物に出かけたり、地域の行事に参加している。 地域新聞を発行し、ボランティアへの協力を呼びかけている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族によるかかりつけ医の受診、主治医の往診等御家族や主治医の協力を得ている。また、異常時には、主治医に指示を仰いだり、受診介助を行っている。	かかりつけ医はご本人の希望するかかりつけ医となっており、受診時は原則ご家族が付き添いますが、必要に応じ事業所から情報提供を行い、医師との状況の確認が行われています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職を配置しており、常に入居者の健康管理を行っている。状態の変化を看護師に報告し指示を仰ぎ、状態変化に応じた対応に努めている。また、主治医との連携も整っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には様子を見に行き、状態を確認している。退院時は医療機関と連絡を取り、退院後の受け入れのに備えている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事例がないが、入居契約時に終末期についての意思確認を行っている。	契約段階でご家族の意向を確認しており、ご利用者の状態に応じて話し合いの場を持ち、ご利用者・ご家族の意向を確認し、ホームでできることを伝え支援していきたいと考えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、消防士を招いて救急法の研修を数日に分け、職員全員が参加できるように行っている。	毎年1回は消防署職員より普通救命講習を受けており、急変時に適切な初期対応ができるようにしています。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、避難訓練を行っており、地域の方にも連絡し参加を呼びかけている。地域の避難場所を確認した。 非常食を人数分×3日分の確保をして、毎年賞味期間の確認も行っている。	毎年、日中・夜間を想定した避難訓練を行っており、地域の方にも参加してもらっています。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の誇りやプライバシーを損なわない対応や声かけを行っている。接遇の講習に参加し、職員の意識向上を図っている。	接遇の外部研修に参加し、言葉かけ等が馴れ合いにならないよう、ご本人の人格を重視したケアが行えるように職員会議の場等で徹底されています。また、広報への写真の掲載についても同意を得ています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者に合わせた声かけ、本人が決定する場面を作っている。誕生日やイベントの時には、本人のやりたい事、食べたいものなど希望を伺い取り入れている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れを持っているが、一人一人の体調や意識を尊重し、畑仕事や家事など個々の入居者に合わせた支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に確認しながら服を選んだり、身だしなみを整えるようにしている。出来ない方には、職員が見守り介助を行っている。散髪も本人の意思を確認し、理髪店に来てもらっている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付けを共に行い、同じもの同じテーブルで食事をしている。また、一緒に食材を買いに行ったり、自家菜園の野菜で旬の野菜を味わっている。	ご利用者の能力に応じて調理や味付け、後片付けも行ってもらっています。また、事業所の畑でもじゃがいもやなすなどの野菜をつくっており、ご利用者の楽しみとなっています。ご利用者の誕生日には希望食を確認し、提供しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食維持摂取量を記録にしたり、定期的に水分を摂っていただけるよう声かけを行っている。また、栄養士に献立を確認して頂、専門的アドバイスを受けている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、本人の力に応じて職員が見守り介助を行っている。また、事業所内で口腔ケアの研修を行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、その人の排泄パターンを把握して、トイレ誘導を行う事でトイレでの排泄を促している。また、本人の意思を尊重しトイレ介助を行っている。	ご利用者全員に排泄チェックを行ない、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしています。トイレも各居室にあり、職員のさり気ない見守りや声かけで気持ちよくできています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、朝食時に牛乳やヨーグルトを提供している。昼食前に軽い体操を行い自然排便ができるようにしている。毎日排便の確認を行い、便秘時には下剤を服用		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人に希望を取りながら、入浴を行っている。	ご利用者の希望に添った時間帯に合わせて入浴支援しています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活のリズムを整えている。夜間眠れない方や、早く起きる方には個別の対応を行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋を介護ファイルに綴り誰でも確認できるようにしている。薬の変更時には申し送りを行っている。また、症状の確認をして変化があった場合は記録に残し、医師に相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の生活歴を基に、経験や智恵を發揮できるように本人に確認しながら食事作り、畑などを手伝えるようにしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、本人の気分や状態に応じて外出や外食、散歩に出かけ季節感を味わっている。	ご利用者と一緒に近くのスーパーに食材の買物に出かけたり、散歩に出かけたりもしています。また季節に合わせたお花見や見学、紅葉狩りなどのイベントとしての外出も実施しています。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほしいものがあれば、職員と共に買い物に出かけている。外食時に支払いが出来るように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者宛に荷物が届いた場合は家族に電話できるよう支援している。年賀状や暑中見舞いの作成もしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る方には居室掃除、リビングの掃除をその人のペースでして頂いている。畑の野菜の収穫や花を摘んだり、季節ごとの食事を入居者様と共に作っている。	リビングは広々として開放感があり、和室もあり、ソファも置かれてあり、ご利用者がゆったりとテレビを見ながら過ごせるスペースとなっています。事業所に飾られている写真や装飾品も季節に合わせてあります。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室入り口にのれんをかけたたり、居室ドアを閉めたりプライバシーに気を付けている。気の合う方と居室にて話をされたり、御自分のペースです		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた家具や小物を置いたり、仏壇に花を飾ったり、家族の写真や自分で手入れをしていた懐かしい盆栽の写真など飾り、安心して過ごせるようにしている。	居室には、ベッドやテレビ、コタツなど、自宅から持ち込んでもらっています。また、ホームでの写真やご家族の写真、カレンダーを飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドや家具の位置など、転倒しないように 本人と家族と相談して安全な生活が送れる ように工夫している。		